

広報たしる

No. 291

昭和52年12月号

田代町企画室編集

1,600部発行



使う
消すまで離すな目と心

これからは、空気が乾燥し、寒さも一段ときびしくなり、火を使う機会が多くなります。

また、年末年始のあわただしさも加わって、火災がおこりやすくなります。

使った火は、必ず自分で消しましょう。タバコはあいかわらず、火災の第一原因です。寝タバコは絶対にやめ、安心してすばらしい初夢でも見て下さい。

十二月の行事予定

19日(月) 国保運営委員会
20日(火) 金融協議会

小組合長会

21日(水) 農業委員会

22日(木) 茶業役員会

28日(水) 御用納め

一月三日・成人式(田代小)

午後一時より



社会福祉



保健婦採用
町民の念願であった、保健婦が採用され、母子相談、妊婦相談などの保健衛生が整理充実してきました。

老人福祉センター着工

老人の憩いの場として、町内高齢者の方々の念願であったのが、三月末を目標に庁舎南側に完成します。

高額療養資金貸付

国民健康保険の被保険者で高額療養費（三万九千円以上の診療者）の支給見込額一万円以上でありかつ高額な医療費を支払うことが困難と思われる者の属する世帯主に貸付する。



教育



① 大原中学校新校舎落成

② 文化協会発足校舎落成

田代町の文化の向上をはかるため、各民謡、習字、剣舞などのグループが協力し活動を始める。

③ 婦人学級の開校

田代町の婦人の

④ 高校在学父母連絡会発足

田代から高校に就いている生徒たちの父兄が、その相互連絡と生徒の健全な教育のために連絡会をつくる。

⑤ 交通安全作文コンクール小学校の部で大原小最優秀校に！

⑥ 県美術作品展で、田代中野田君・県教育委員会賞受賞

飲んだら乗らない
飲ませない

年末年始
交通安全

52年度の主な出来事



花瀬公園・大隅南部県立自然公園指定

内之浦、根占、大根占各町とともに田代町花瀬公園が県立自然公園に指定されました。

また、天然記念物「川ゴケソウ」が安楽川から花瀬川に移植されました。そして、新種「田代川ゴケソウ」が花瀬川より発見されました。

産業



農業生産最高を記録

- 子件 750頭を売り、17,000万円をあげる。
- たばこ 16,155万円
- 茶 20,700万円
- ブロイラー 1農場当り250万円究破

行政



中央運動場完成

町民の運動の場としての運動場が完成し、町民運動会、朝夕の運動、ソフトボール等スポーツ振興に役立つ。

肝付南部消防組合発足

消防本部を鹿屋に、南部消防署が大根占におかれ、急救業務など消防行政が整備さる。

死亡事故0ストップ

10月4日上原三又路前で死亡事故が発生し、1793日間続いた記録がストップしました。

本町盟山の町清之進氏、春の叙勲により、勲六等単光旭日章を受けられる。



季節の話題

師走

師すなわち師匠が走ると書いてしらすと読ませます。十二月は一年最後の日である、極わまた月という意味で別府極月ともいいますが、何となくあわただしく過ぎてゆく年の暮れ、普段はおつとりと構えている寺小屋の師匠もおろおろ歩いていられてなくて走り出すくらい万人皆忙しいという意味で、極月よりやや生活派の感覚を持っています。師走の方が一般です。

しかし十二月をなせしらすというのか、といえます。いろいろな説があります。奥義抄という本では、十二月はお坊さん（法師）はまことに忙しく、東西南北と走り回る。法師が走り回る月、師走り月、それがなまっしてしらすになったのだと説明しているといえます。今は少なくとも年末にお坊さんと呼ぶ風習はありませんから、この説が本当だとすると相当昔のことなのでしょう。あるいはこの風習が残っている地方では素直に理解されるかもしれませんが、ところが類聚名物考という本は奥義

抄より後世のものです。法師が走り回るからしらすというのは間違いで、春夏秋冬、四季の果つる月と解釈するのが本当でこのことばがだんだん短くなってナマッていわずになったのだと書いてあるようです。

江戸時代の学者として有名な新井白石は類聚名物考に近い解釈をしたようです。すなわち、中国では十二月を歳終というから、これから類推すると、年果つる月ということばがだんだん省略され、しらすに形を変えていったのではないかと、と著者の中で述べているといわれます。

いずれにしても十二月は一年の最終日、たしかにこれで終わるわけではなく、新しい一月が巡って来るのですから、特別なことをしないお宅も少なくありません。でもそれでは区切りがつかない。気分を一新するためにも、ここで一区切りつきたい。そのために畳の張りかえ、すす払い……と忙しいというのもまた人情として大いにわかることです。大掃除やお料理の準備もお客様のために、と思うといぐちの一つも出るものですが自分自身の心の区切りをつけるための環境づくりと思えば歳末の忙しさもまた別の目で眺められるのではないのでしょうか。

タコあげは
電線のない
ところで



戸籍に関する情報は

ホームページ上では

掲載していません



教育だより

その2

九十一周年を迎えた大原小

戦後の大原小学校について追記してみますと、

- ・昭和二二、四 校名変更大原小学校と改称、中学校併設
- ・昭和二六、八 大原校区婦人学級開設
- ・昭和二六、一〇 ルース台風来襲・校舎・住宅被害甚大
- ・昭和二八、二 新校舎完工
- ・昭和二八、三 新校舎三教室
- ・昭和三〇、九 台風二二号来襲 地区一円未曾有の大被害
- ・昭和三一、六 時の記念日にサイレン設置
- ・昭和三一、一〇 ピアノ購入 十九万五千円
- ・大原校々歌制定（小中共通）ピアノ開き
- ・昭和二三、四 複式学級解消
- ・昭和二三、五 学校に水道施設
- ・昭和二三、一一 新村利美氏二宮金次郎銅像を贈る
- ・昭和二三、三 内之牧分校閉鎖
- ・昭和三四、五 十七インチ、サンヨーテレビ購入
- ・昭和三五、七 はじめて補導員任命さる

- ・昭和三六、五 教室二増築、官行の子弟四十四名集団転入学に備えて、内之浦営林署が建築
- ・昭和三七、九 内之浦町岸良小学校より四十四名転入学
- ・昭和三七、四 大原小中学校分離、はじめて専任教長おく
- ・昭和三八、一〇 はじめてPTA研修旅行実施
- ・昭和三九、八 給食室竣工
- ・昭和四〇、九 給食開始
- ・昭和四一、一一 体育研究中心校公開
- ・昭和四一、四 校内放送施設完成
- ・昭和四三、二 消防用水槽校庭に設置さる
- ・昭和四四、三 鉄筋校舎建築 予算三千五百円町議会議決通過
- ・昭和四四、六 旧校舎の解体始まる
- ・昭和四四、八 親子テレビ購入、テレビによる学習開始
- ・昭和四五、二 本館竣工
- ・二月十三日旧校舎より移転
- ・昭和四五、四 創立八十五周年新館落成記念事業はじまる
- ・昭和四五、八 体育館建築工



全校給食で

「おめでとう」

誕生給食会が始まって三年になります。

初めは、毎月一回全校の職員児童が、体育館に集まり、誕生者を祝いながら、なごやかな給食時間となるように心がけた。

給食の合間に、校長先生やお友だちのお祝いのことがあり「誕生おめでとう」の鉛筆がわたり、各学年のレクリエーションなどがあつたりして、本当に楽しい四十分間を過ごしていました。二年めに入り、全校給食のた

めの準備。給食後の子どもたちの休み時間など、考慮しなければならぬ点が出てきました。そこで、誕生者はその月毎に校長先生と図書館で会食することになりました。

全校給食は毎学期一回実施することにして現在に至っているわけです。

この誕生給食会によって、子どもたちとの心の交流ができ、なんでも話そうの雰囲気もあがってきました。

田舎の子どもたちにもあんな引込思案を、少しでも解消することができたならの願いをこめて、毎月つづけていきます。

南日本花壇コンクール入選

います。

県交通安全協会

から学校賞

県交通安全協会が募集された作文、ポスターに応募した結果作文の部で学校賞をもらうことができました。

交通安全教室を開くたびに、安田部長、森園巡査、大根占署の方のご協力があり、子どもたちの交通安全に対する考え、見方がしっかりしてきた結果だと考えています。

無名作者

原之助亀助さん逝く

明治三十八年頃田代尋常高等小学校を卒業された、原ノ後さんは、これだけの学歴で、昭和四十三年に「諸事今昔の記」第一号を発刊され、続いて昭和四十六年に第二号を発刊。さらに続いて昭和四十七年第三号を発刊され、田代町の明治・大正・昭和の百余年にわたる、いろいろのできごとを、自分の記録をもとに調査発刊されています。田代町の郷土誌編集の資料としても大変な参考となるでしょう。

追悼詩

亀助おじさんの

おーい亀助おちさん、と

呼んでみたい

声は返って来ないだろう

でも呼んでみよう

おーい亀助おちさん

亀助おちさんよ

いつもニコニコ笑顔でサー

どこに行くにも自転車

記録たずねてヨ

永遠に遺徳を偲びたい

残したい

原ノ後未利作



昭和五十三年成人式

昭和53年度の成人者は、昭和

32年4月2日から昭和33年4月

1日まで生れた者。

○期日 昭和53年1月3日(火)

○時間 午後1時より

○場所 田代小学校体育館

○式典

開式のことば

国歌「君が代」

式 辞

お祝いのことば

記念品贈呈

感想発表

激励のことば

謝 辞

閉会のことば

○アトラクション

郷土芸能など

輪に一庭お

「かわいい花」

「美しい花」

「きれいな花」



若宮神社の神舞面



木製のよくできた面である。舞楽面は八面で、若宮神社の祭のさい、古くから使用されたものであろう。

作者などわからないが、室町時代頃(六四〇年前)の作であらうといわれている。

面は霊物として鬼や天狗を神体化したものを形づくっている。現在川原の柴立正千代氏が保管責任者となっている。

田代中体育部だより

南部地区(四ヶ町) 中学校新人戦

去る11月9日(水)、根占中、大根占小、大根占中を会場に各学校の体育各部の部員による熱戦が展開されました。

その趣旨は、7月の地区大会

に参加した三年生を除く、一、

二年、いわゆる新人による試合

をおこなうことにより、学校教育

の中でも大きな位置を占める

部活動の振興、生徒の心身の鍛

練、来年度への見通しと今後の

部活動に対する方策のたて方な

どをねらいとするものでありま

す。

卓球

男子団体 二位、三位

個人 三位 野々峯 司

庭球

女子団体 三位

個人 三位 隈元周代 組

剣道

男子団体 二位 Aチーム

一位 Bチーム